

## 令和7年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	1 何事にも誠実に取り組み、強い意志を持って主体的に学習する態度を身に付けさせる。 2 郷土に誇りを持ち、他者を敬愛する豊かな人間性を養う。 3 心身ともに健康で、社会の発展に貢献できるたくましさを育てる。
------------	---

学校整理番号	17
学校名	黒石高等学校
全日制の課程	校舎

(2) 現状と課題	ギガスクール構想の1人1台端末を授業や総合的な探究の時間に有効に活用できるように、積極的に研修を行い、各教科等で実践して授業改善に努めているが、効果的な活用方法が全教員に共有されていない。また、「あいさつの励行」を挙げて取り組みを続けており、コミュニケーション能力向上において一定の成果は認められるが、教職員も含めてさらに挨拶の励行を推進していきたい。生徒の進路指導については添削や解説会など、生徒に個別に対応することを基本として進めており、これまで積み上げてきた実績を踏まえ、さらに改良を加えてチームによる指導体制を確立することが必要である。
-----------	--

自己評価実施日	令和8年2月6日
学校関係者評価実施日	令和8年2月26日

(3) 重点目標	1 確かな学力を育む(学習指導)
	2 豊かな心を育む(生徒指導)
	3 夢の実現を支援する(進路指導)
	4 開かれた学校を目指す(外部連携)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校運営協議会委員 9名

(4) 結果の公表	本校ホームページ上にて公表する。
-----------	------------------

自 己 評 価				学校関係者評価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	確かな学力を育む(学習指導)	①講義形式の一斉授業と探究型学習をバランスよく実施し、生徒に「わかる・わかりたい」を与える授業サイクルをつくる。 ②生徒が主体的に学ぶ探究型・協調型学習を工夫し、ICTを効果的に活用することで、思考力や表現力を高める授業を実践する。	①各教科の研究授業を昨年度以上に実施し、生きる力と確かな学力を育むため、基礎・基本を重視した指導を徹底した。さらに、生徒一人ひとりの理解度や関心に応じて、「わかる・わかりたい」と感じられる授業づくりを推進し、主体的に学ぶ姿勢の育成につなげることができた。 ②ICT端末の設定や整備を的確に行い、活用しやすい学習環境を整備した。その結果、生徒がICTを積極的に活用し、主体的に学習に取り組む態度を育むことができた。また、ICT活用を通して学習意欲や理解力の向上にもつなげることができた。	B	・中学校で行われた「探究」の発表では、高校生がスライドを使って効果的な発表をしており、中学生にとっても大変参考となります。	・他教科を含め多くの授業を参観し、意見を交わす機会を増やしていく。 ・次年度は、生徒の主体的に学ぶ態度の育成を図るために、授業で活用しやすいICT環境の整備を進めるとともに、研修や他校の活用事例を調査するなどし、教職員が確認し合える場を用意する。
2	豊かな心を育む(生徒指導)	①授業、HR、部活動、委員会など生徒との関わりの中で挨拶を指導し自発的に挨拶ができる生徒を育成する。 ②不登校や問題行動、いじめの未然防止に努め、日常の小さなサインを見逃さず早期に発見し、関係職員で情報を共有して組織的に対応する。	①朝の玄関指導を生徒と関わる機会と捉え、明るく声掛けをしながら様子を観察し、生徒理解の入り口として活用している。学校生活では挨拶や礼節の指導機会が多岐にわたり、教員は適切なタイミングで関わることで、生徒も徐々に場面に応じた適切な振る舞いを学び、成長している。 ②面談週間の有効活用を呼び掛け、生徒が教員に悩みを打ち明けやすい環境づくりに努めた。その結果、生徒が安心して「SOS」を出せる体制を整え、早期に支援を行える体制の充実につなげることができた。	B	・部活動が今ひとつ活発に行われていないようであるが、部活動での挨拶や人間関係の醸成は効果が期待できると思われるので期待したい。	・挨拶をすることによる効果について進路指導と関連付けて考えることが教員も生徒も多いと思われるが、校訓にある「健康」にもちなみ、まずは自分の健康のために行われていることを生徒に理解させたい。大きな声での挨拶が自分で気持ちよくなることや笑顔になることで周囲との良好なコミュニケーションの育成につなげていきたいと思う。 ・日頃より生徒の様子に注意を払いながら生徒の些細な変化を見逃さないという姿勢を継続し、生徒との関係作りや情報の共有を呼びかけていきたい。
3	夢の実現を支援する(進路指導)	①国公立大学志望者には、基礎力の定着と応用力の育成のため、計画的かつ継続的に個別添削や解説会を実施する。 ②生徒の進路達成のため、一人一人に複数の教職員で対応し、きめ細かな指導を行う。	①入学時の進路目標を維持・向上できるよう、個々の理解度や学習状況に応じた指導を徹底し、進路目標達成を支援する体制を整えた。特に国公立大学志望者には、高校3年間を見通した計画的な指導や学習計画の作成を行い、各自の課題に沿ったきめ細かなサポートを実施した結果、多数の合格者を輩出することができた。 ②分掌・学年・地域と連携してキャリア学習を実施し、生徒一人ひとりが自らライフプランを立て、高校3年間で取り組む課題を明確化した。「総合的な探究の時間」などを最大限に活用し、各自の進路目標達成を支援するための体制を整え、継続的にサポートを行った。	B	・個別添削や解説会の頻度や参加生徒数などの情報はありますが、進学者割合とそれに対する国公立大学の合格者数などから、例年とほぼ同様それ以上に成果があがっているのではないかと推測します。 ・3つの学科と専攻科を持ち、幅広く多様な進路希望に対応することは大変だと思いますが、卒業生の進路状況を見ると、適切に対応できていると思います。 ・受験者数の減少による生徒間の学力差拡大への対応として、これまで以上に個に応じたきめ細かな指導が求められるようになると思います。クラス編成や指導体制などに工夫が必要だろうと思います。	・国公立大学への進学希望者を対象に個別添削指導を行って6年目となる。今年度の進路状況や各学年の個別添削の実施状況を踏まえ、今後の進路目標達成を支援する体制作りを固めていきたい。 ・3年前より再開したキャリアサポート形成事業に係るワークショップは、今年度も無事実施できた。生徒からは参加大学生の貴重な体験談を聞くことができたという声もあった。来年度も継続して行う予定である。

4	開かれた学校を目指す（外部連携）	<p>①学校ホームページやPTA新聞、配信メール、学年通信、学級通信等を活用して、保護者・地域へ学校情報の発信を行う。</p> <p>②地域や関係機関と連携・協働を深め、学校運営協議会やボランティア活動などを通して、地域に開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>①学校ホームページ、PTA新聞、学年通信、学級通信を定期的に発行し、学校の魅力や生徒の活動・成長の様子を幅広く発信した。これにより、保護者や地域に学校の教育活動や取り組みを的確に伝え、理解を深めるとともに、学校・家庭・地域の連携を強化することができた。</p> <p>②地域や関係機関と連携・協働し、特に情報デザイン科の取り組みにおいては、産・学・官が一体となった協力体制を構築した。これにより、実践的な学習機会を生徒に提供するとともに、地域課題の解決や産業・行政との連携強化にも寄与した。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報デザイン科の記事はよく新聞で拝見します。</li> <li>・新聞以外での発信を増やすようにしたほうがいいと思います。</li> <li>・今年度新たに行われました中学校文化祭での情報デザイン科の作品展ですが、中学生にも教職員にも大変好評でした。今後も継続していただき、中・高連携を深められればと思います。</li> <li>・地域との連携や活動に対しては黒石市や近隣市町村からの評価は高いと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報デザイン科展において、SNSを活用した展示会の情報発信を行った。事前に積極的な広報を行ったことで、多くの来場者を迎え、大盛況のうちに終えることができた。次年度はこの取り組みを参考にしながら、学校全体の魅力や教育活動を効果的に地域へ発信する方法を検討していく。</li> <li>・今年度に引き続き、次年度もボランティア活動を通して地域の企業や団体との関係性を深め、地域社会に貢献するとともに、地域が抱える課題について知り、考える機会となるようにする。</li> </ul>
(11) 総括		<p>学校経営方針を踏まえ、年度末に行った学校運営評価会議で話し合った改善点を、新年度の分掌経営計画に確実に反映し、PDCAを意識した取り組みを実践して学校の教育目標を達成したい。また、授業改善や働き方改革を進めるために重要となるICTの効果的な活用について、全教職員で共通理解を図り、その上で、効果的な活用方法を学校全体で実践していきたい。</p>				